

地質情報展2004 ちば 海から生まれた大地

吉田 朋 弘¹⁾

2004年9月18日(土)～20日(月)の3日間、千葉市にある千葉県立中央博物館(写真1)の企画展示室(写真2)をメイン会場に地質情報展を開催しました。3日間で1,600名を超える市民の方々が会場を訪れ、身近な地質情報の多さに驚き、対応する研究者の説明に聞き入っていました。

地質情報展は、地学の啓蒙・普及を目的に、産総研地質調査総合センター(旧地質調査所)と日本地質学会との共催で企画され、1997年10月に福岡市で開催した九州地質情報展を皮切りに毎年1回、地質学会年會に併せ開催してきました(第1表)。

8回目を数えた今回は、海底堆積物からなり現在も隆起している千葉県の地質紹介をメインテーマとして、海岸段丘やタービダイト、房総半島沖の海底地質、関東ローム層、活断層、山砂利や天然ガスなどの天然資源等々、主として地質調査総合センターの研究成果を中心に展示を行いました。また、千葉の房州石や日本各地から集めた色々な石を割ったり(写真3)、化石のレプリカを作ったり(写真4)という体験コーナーが設けられました。更に、今

回は後援機関の一つである関東地質調査業協会が、2004年7月の新潟県・福井県の豪雨による被害状況写真や、過去の地震による様々な被害状況写真を展示され、その凄まじさを来場者に紹介しました。

開催にあたり事務局が頭を痛めるのは、1人でも多くの方に来場してもらうため、どれだけ効率よく宣伝できるかということです。今回は、通常行っている専門誌への記事掲載依頼、教育機関・報道機関・博物館友の会等へのポスターやチラシの送付のほかに千葉県立中央博物館の協力を得て、新聞社・NHKの各千葉支局への挨拶廻りを行ったのが効を奏し、多くの媒体をとおして地質情報展を紹介していただきました。アンケートの中にも、NHKのニュースや、新聞記事を見て来られたという回答が例年になく多かったように感じました。その結果、3日間開催しているここ数年の情報展の中では、最も多い来場者で賑わいました。開催日が休・祝日であったため、前回のよう、小学校のクラス単位での団体参加者がいなかったのが、筆者としては唯



写真1 千葉県立中央博物館。



写真2 メイン会場の企画展示室。

1) 地質情報展開催事務局, 産総研 地質調査情報センター

キーワード: 千葉, 地質情報展, 日本地質学会, 普及活動

第1表 地質情報展の履歴。

回数 開催年	件名 開催場所	開催日 (開催期間)	来場者 総数	レプリカ作成 種類・個数 参加者人数	主催者	後援機関
第1回 1997	九州地質情報展 「知っていますかあなたの大地 —地質学が探る九州島—」 福岡市立少年科学文化会館	10月10日	500強	4種類 152個 121人	地質調査所, 福岡市立少年科学文化会館, 日本地質学会	
第2回 1998	甲信越地方地質情報展 「ザ・フォッサマグナ」 信州大学共通教育センター (長野県松本市)	9月26日～27日 (2日間)	1,162	8種類 300個 155人	地質調査所, 信州大学理学部, 日本地質学会	長野県教育委員会
第3回 1999	中部地質情報展 「20億年のタイムトラベル」 名古屋科学館	10月9日～11日 (3日間) ※9月15日から 事前開催	2,500	1種類 790個 790人	地質調査所, 名古屋科学館, 日本地質学会	愛知県教育委員会, 岐阜県教育委員会, 三重県教育委員会, NHK名古屋放送局
第4回 2000	山陰地質情報展 「地質が明かす くにびきの里」 松江テルサ(島根県松江市)	9月29日～ 10月1日 (3日間)	1,341	4種類 334個 193人	地質調査所, 日本地質学会	島根大学, 島根県,島根県教育委員会, 松江市,松江市教育委員会, 島根県地学会 中国地質調査業協会島根県支部
第5回 2001	北陸地質情報展 「ぼくらのせた大陸のかけら」 MROホール(石川県金沢市)	9月21日～23日 (3日間)	951	5種類 364個 258人	産業技術総合研究所 地質調査総合センター, 日本地質学会	石川県教育委員会, 金沢市教育委員会, 金沢大学, 北陸放送
第6回 2002	地質情報展 にいがた 一のぞいてみよう大地の不思議— りゅ〜とびあ4Fギャラリー (新潟市民芸術文化会館)	9月14日～16日 (3日間)	913	1種類 216個 216人	産業技術総合研究所 地質調査総合センター, 日本地質学会	新潟大学, 新潟県,新潟県教育委員会, 新潟市教育委員会, (社)新潟県地質調査業協会
第7回 2003	地質情報展 しずおか —プレートの出会う場所— グランシップ4F展示ギャラリー (静岡県静岡市)	9月19日～21日 (3日間)	1,415	1種類 641個 641人	産業技術総合研究所 地質調査総合センター, 日本地質学会	静岡大学, 静岡県,静岡県教育委員会, 静岡市,静岡市教育委員会, 静岡県地質調査業協会, 静岡県地学会
第8回 2004	地質情報展 ちば —海から生まれた大地 千葉県立中央博物館 2F企画展示室ほか (千葉県千葉市)	9月18日～20日 (3日間)	1,637	4種類 687個 632人	産業技術総合研究所 地質調査総合センター, 日本地質学会	千葉県,千葉県教育委員会, 千葉市教育委員会, 関東地質調査業協会, 千葉大学理学部 ※千葉県立中央博物館連携事業

・地質調査所:旧通商産業省(2001.1 経済産業省)工業技術院地質調査所
 ・産業技術総合研究所:独立行政法人 産業技術総合研究所(2001.4～旧経済産業省工業技術院15研究機関等を融合して発足)
 ・地質調査総合センター:産業技術総合研究所内における「地質の調査」に関連するユニットを一括した総称

一の心残りです。

例年、地質情報展の会場を選定するには、地の利を活かして地質学会年会のホスト大学(今回は千葉大理学部)の先生方にご尽力いただいております。今年は、地学関係の常設展示が充実している千葉県立中央博物館にて開催いたしました。同博物館の地学系常設展示は、入館すると最初に見る展示コーナーになり、その規模や内容は公立博物館トップクラスでした。地質情報展では、同博物館の常設展示と重複しないようにタイトルを考えたり、独自の展示方法や内容作成に苦心しました。また、同博物館が、2004年4月から小・中学生等を除き有料になったことで、地質情報展の展示会場も有料

スペース(企画展示室ほか)と無料スペース(1階第2ホールほか)に分かれることになり、地質情報展の受付を置く場所や展示テーマのレイアウトなどにも苦労しました。いざ、開催してみると来場者にも分かり難くなってしまい、出入り口が複数あることで情報展の受付をしなかったため、アンケート回答者への記念品をお渡し出来ない方もいらっしゃいました。お詫び申し上げます。

ところで、アンケートなどの来場者のご意見には、主催者として大変ありがたく思っております。ここにいくつか紹介いたします。

- 第一線で活躍されている研究者が毎年全国各地で普及活動を行う事は地元の人達にとってとても



写真3 石割り体験コーナー。



写真4 化石レプリカ作成体験コーナー。

大事なことです。準備が大変かと思いますが頑張ってこれからも続けて下さい。(地質学会員)

- この情報展を楽しみにしている者です。開催場所が毎回変わることも楽しく期待して、地質ニュースを注意深く読みます。今年の「海から生まれた大地」とてもすっきりした、そして、興味深いテーマでしたから、何でもよく見せていただきました。休憩室会場壁面に「拡大した珍しい化石」の写真、休みながらしっかり眺めながら見せてもらい、ホッと一時でした。とてもよかった。(一般)
 - 教員(小中)を目指しているので、子供達が楽しそうに石を割ったり、砂を鳴らしているのが印象的だった。液状化やレプリカ作りはよい教材になりそうな気がした。すごく面白かった!(大学生)
 - 初めて見たり聞いたりすることが多くとてもびっくりした。地学だけでここまでたくさんコーナーがあるとは思っていませんでした。地学に対しての評価がまた一つ、自分の中で上がった。(高校生)
 - 化石のことに詳しくなりました。特に微化石にはとても興味を持ちました。なぜなら目に見えないようなとても小さな化石を一つ一つ調べる気の遠くなるような作業がすごいと思ったからです。(中学生)
 - 小1の女の子ですが喜んで岩石を割り、レプリカ作り真剣に取り組んでいました。宝物のようにお土産を頂いておりました。(小学1年生の母親)
- このようなご意見・ご感想ばかりではなく、
- 専門外のことも少し勉強され、説明できるようにされたらよいと思います。(地質学会員)
 - 説明文の表現が少しかたいのではないか。地学は特に専門用語が多くて一般には取っつきにく

いので、もっとやわらかい表現にして文字数もへらして、図の多用やビデオなどなるべく視覚に訴える展示にしたらいのでは、説明文を長く読んでいるのも結構疲れます。(一般)

などのご指摘もいただいており、写真や図を多くして文字数を少なくするよう努力はしておりますが、これらのご指摘を真摯に受け止め、今後の普及イベントに役立てていきたいと考えています。

地質情報展も毎年場所を変えて開催し8回を数え、3日間開催で定着しております。来場者数も千数百名程度と、労働力の割には遅々たる地道な普及活動です。毎回来場者には好意的なご感想をいただいておりますが、「もっと長くやってほしい」「また、ここでやって下さい」との声は、楽しんでもらえたと喜びの反面、アフターケアの難しさに苦悩します。「やりっ放し」と言われてもしょうがない現状では、同一会場(場所)での再開催は難しいです。今回、千葉県立中央博物館から展示ポスターを引き取りたいとの申し出がありました。現在、展示ポスターは2004年10月5日から2005年2月27日までの予定で地質標本館にて特別展示しております。特別展示終了後に同博物館にお譲りする予定です。今後、何らかの形で同博物館のイベントに活用され、地質情報展に来られなかった人達の目に触れることで、地質情報展の開催意義が明確になっていくと思います。私ども主催者側からアクションを起こすことは勿論、地学にご興味をお持ちの本誌ご愛読者の皆様からも様々なご意見をいただければ幸いに存じます。

なお、今回の「地質情報展2004 ちば」や過去(2001金沢・2002新潟・2003静岡)の開催内容は、

地質調査総合センターHP (<http://www.gsj.jp/HomePageJP.html>) イベントカレンダーからご覧いただけます。皆様のご意見・ご質問等を、同HP内「地質相談所」にお寄せ下さい。

最後になりましたが、千葉県立中央博物館の高橋先生をはじめ職員の皆様には、企画の段階から最後の後片付けまでご協力いただき、当方の我が儘も聞いていただきました。また、千葉大学の津久井先生をはじめ地質情報展開催にあたりましてご

尽力いただきました皆様、ご後援をいただきました各機関(千葉大学理学部、千葉県、千葉県教育委員会、千葉市教育委員会、関東地質調査業協会)に感謝いたします。

YOSHIDA Tomohiro (Working group of Geoscience Exhibition in Chiba) (2005) : Geoscience Exhibition in Chiba.

<受付: 2004年11月15日>

2004年9月に千葉市で開催された「地質情報展 2004 ちば 海から生まれた大地」を地質ニュースでは2号にわたって特集し、その展示内容や様子を紹介します。次号の内容は以下のとおりです。

- 千葉県の地震・活断層・津波
- 東海地震予知のための地下水観測
- 火山 -噴火の脅威とその恵み-
- 20万分の1デジタル地質図「東日本地域」
- 地球物理図
 - 重力や磁力で地下の構造を調べて見よう
- 地質情報展2004 ちば 体験コーナー
 - 石を割ってみよう-
- 地質情報展2004 ちば 体験コーナー
 - 地学クイズ-
- 地質情報展2004 ちば 体験コーナー
 - 自分だけの化石レプリカを作ろう!-

展示されたパネル等は地質調査総合センターホームページ(<http://www.gsj.jp/HomePageJP.html>)からご覧いただけます。また、地質標本館では2005年2月27日まで特別展示として、地質情報展の展示物を5つの期間に分けてそれぞれ展示します。

地質標本館 特別展示

地質情報展 2004 ちば 海から生まれた大地

地質情報展 2004 は、深海地質物からなり現存も確認している千葉県の地質をはじめとした様々な地質情報の展示と、子供向けの体験コーナーを中心として、2004年9月に千葉市で開催された普及イベントです。今回の特別展示では、地質情報展の展示物を5つの期間に分けて展示します。

期間: 2004年10月5日~ 2005年2月27日

第1期 (10/5-10/31)
海から生まれた千葉の大地 - その歴史をひも解く 房総半島南端の陸上で深海地層探検?! 海神段丘が語る過去の巨大地震 タービダイトの謎

第2期 (11/2-11/28)
A 史前時代の地質 - 関東平野の地層を解読できる! 関東平野の深部地下地質を探る 最新の研究成果から - 東京盆地について 地層断面 - 重力や磁力で地下の構造を調べてみよう

第3期 (11/30-12/26)
海成湖盆の成り立ち - 海洋地質図 関東ローム層 - 広域に広がる火山灰 火山 - 噴火の脅威とその恵み 地熱発電と千葉の温泉

第4期 (1/5-1/26)
千葉県の活断層を調べてみよう 津波のメカニズムとその伝播を探る 地下水観測 - 地震予知をめざして

第5期 (2/1-2/27)
房総半島の山形地層 - 奥秩父と環境を貫つくる 美しい砂の世界 - 千葉県の海砂あれこれ 千葉の天然ガスと油ガス資源

地質標本館